

第5学年 国語科学習モデル指導案

1. 単元名 「古典の世界」

2. 本時について

(1) 本時の目標

言葉は時代によって意味が変化するものであることを知り、言葉の使い方への関心を高めるとともに、言葉を用いたコミュニケーションのあり方について考える。

(2) 本時の展開（最後の15分の展開）

分	教師の支援	学習活動
2		
	☆ワークシートを配付して、前半の竹取物語の部分を読み合わせる。	
5	<p>●「竹取物語」の原文と現代語訳を比較させ、今でも使われている言葉が、昔はどのような意味で使われていたのかを知る。</p> <p>●今と昔では、違う意味で使われていた言葉があることに気づかせる。</p>	<p>T:今と昔で使われ方が違う言葉はありますか。</p> <p>C:「あやしがりて」は今は「あやしい」「うたがう」という意味で使っているけど、昔は「不思議に思って」なんだね。</p> <p>C:「うつくしい」は、今は赤ちゃんに対してはあまり使わないよ。</p> <p>T:今と昔では、違う意味で使われていた言葉があります。これらは長い時代を経て、少しずつ意味が変わり、今みんなが使っている意味になりました。</p>
	☆ワークシート後半の「同じ言葉はいつでも同じ意味で使われるの?」を使用して、「うける」という言葉を使った文を、他の言葉で言いかえた文にさせる。	
7	●書いたものを周りの友達やクラス全体で交流させる。	<p>C:①の「うける」は「おもしろい」という意味だよ。</p> <p>C:②は「人気が出た」みたいな意味かな。</p>
11	●「うける」の語源をおさえる。	<p>T:「うける」には、「客から拍手を受ける」から転じて「評判である」という意味があります。それが、「自分がおもしろい・笑える」と感じるものに対しても使われるようになりました。</p>
13	☆キャリアの宝につながる解説(児童への落とし込み)をする。	
	<p>言葉は時代とともに変化したり、それぞれに語源があったりして、知れば知るほどおもしろい奥の深いものです。だからこそ、言葉の使い方や意味を大切にして、気をつけて使っていく必要があります。私たちは、周りの人と言葉を使ってコミュニケーションをとります。言葉は時代や人によって捉え方に違いがあるので、相手はその言葉を使って何を伝えようとしているのかを考え、気持ちを汲み取るようにできるとよいですね。自分の言葉の世界を広げ、コミュニケーションをもっと楽しみましょう。</p>	